令和８年度　奄美・沖縄子ども交流事業

ぼくらのシマ図鑑



ぼくたち、わたしたちは、
西表島での研修を前に、奄美群島と西表島の自然について学びました。この図鑑には、事前学習を通して学んだことや感じたことをまとめています。

2026



MESSAGE

はじめに

西表島での自然環境研修を前に、奄美群島の中学生の皆さんには、自分の島の豊かな自然や生き物、身近で起きている環境問題、そして西表島との共通点や違いについて考え、それぞれの視点でまとめてもらいました。

私たちが暮らす奄美群島と西表島は、ともに世界自然遺産に登録され、多様な生態系や固有の動植物が今も息づく貴重な島々です。

その豊かな自然は、そこに暮らす人々の営みや自然を守る取り組みによって支えられています。自分たちの島を知ることは、他の地域の自然や文化を理解する第一歩です。この事前学習を通して、参加者一人ひとりがふるさとの魅力を見つめ直し、「未来へ残したい自然とは何か」「自分たちにできることは何か」を考えるきっかけとなることを願っています。

この冊子に綴られた言葉は、子どもたち自身が感じ、考えた等身大の思いです。西表島での交流や体験を通して新たな発見を重ね、島を越えて学び合うことで、世界自然遺産を未来へつなぐ担い手としての意識が育まれることを期待しています。

目　次

奄美大島の中学生・・・・・・・・・・・・・・・・３ページ目

喜界島の中学生・・・・・・・・・・・・・・・・・９ページ目

徳之島の中学生・・・・・・・・・・・・・・・・１０ページ目

沖永良部島の中学生・・・・・・・・・・・・・・１３ページ目

与論島の中学生・・・・・・・・・・・・・・・・１４ページ目







奄美大島

奄美市立金久中学校
３年　直田　夕輝



１.ぼくが住んでいる島の自然

僕の住んでいる島の代表的な自然は、金作原原生林です。亜熱帯広葉樹の森で、高さ10ｍにもなる巨大なシダ植物ヒカゲヘゴやオキナワウラジロガシの巨木が茂る太古の森で、天然記念物のルリカケスやアマミノクロウサギなど希少な生物が生息しています。そして、奄美の固有種だけではなく、渡り鳥も宝庫です。奄美大島の森は、６割がシイの木で、そのシイの木からどんぐりがおちて、それが渡り鳥の餌になります。

２.ぼくの島の生き物

僕はアマミイシカワガエルを紹介します。アマミイシカワガエルは、山地にある常緑広葉樹林からなる自然林内を流れる川などに生息しています。2003年に鹿児島県の天然記念物に指定され、2016年には、国内希少野生動植物種に指定されました。緑色の肌に金色の斑紋が全身にあり、その見た目から、「日本一美しいカエル」とも呼ばれています。

３.ぼくの島で起きている環境問題

僕は、ロードキル問題について考えます。ロードキル問題が起きる原因は、ドライバーの意識問題だと考えます。世界自然遺産に登録され、長年の保護活動が奏を功し、アマミノクロウサギの個体数が、近年で大幅に増加しています。これまで姿を見せなかった集落の近くや道路沿いでも頻繁に目撃されるようになりました。個体数が増加することによって、ドライバーの「ここにはいないだろう」という考えが、予想外の結果を招くことになります。解決策としては、飛び出しを予測する「かもしれない運転」や、山道での速度制限、飛び出し防止柵を設置することが大切だと考えます。

４.西表島とのちがい

両方の島の共通点は、「固有種・希少種が多い」と考えます。奄美大島は「アマミノクロウサギ」や「ルリカケス」、西表島では「イリオモテヤマネコ」、「キシノウエトカゲ」などが見られます。相違点は、生態系と固有種です。奄美大島と西表島は、比較的距離も近いですが、全く異なる生態系が見られます。奄美大島は比較的古い系統の生き物が生き残っていますが、西表島では、台湾や東南アジアに近い生態系を持っており、独自の小型化や特異な進化を遂げています。この違いは、島が孤立した時期が関係していると考えます。奄美大島は、琉球列島でもかなり早い段階で切り離され、完全に独立した島になりました。一方西表島は、奄美大島が孤立した後も台湾とつながっていた、あるいは非常に近い距離にあったため、比較的新しい時代に進化を遂げた生き物が、西表島に渡ってくることができました。このことから、この違いが生まれたと考えました。

奄美大島

宇検村立名柄中学校
３年　廣瀬　郁羽



１.ぼくが住んでいる島の自然

奄美大島の代表的な自然は、やはり湯湾岳でしょう。世界自然遺産地域で、多くの希少な固有種が生息していることが大きな特徴です。１年を通して高温多湿な環境で、入山規制のある頂上付近や原生林には、貴重なラン類やシダ類、マルダイコクコガネなどの動植物が生息しています。近年は、環境保全によって、麓でも多くの生物を見ることができるようになり、気軽に貴重な生物を観察できることが魅力です。アマミノクロウサギやケナガネズミ、アカヒゲ、ルリカケスなどもよく見ることができます。

２.ぼくの島の生き物

奄美大島の特徴的な動植物に、カンアオイの仲間があります。カンアオイは地面からたくさんのハートのような葉が生えていて、先が割れ、開いた壺のようなふしぎな形の花を咲かせます。奄美大島には個性豊かなカンアオイが８種生息していて、そのうちの５種が奄美大島の固有種です。カンアオイの仲間のタネはアリが運びます。そのため、非常にゆっくりと、陸続きでしか生息地を広げることができないため、奄美大島が大陸と陸続きであったことを証明しています。カンアオイの１番の特徴は、形質は大きく異なるが、遺伝子はほとんど同じということです。これはひとつの種から、とても速く進化しためと言われています。また、カンアオイから未発見の昆虫も発見されていて、奄美大島のカンアオイはとても不思議で面白い植物だと思います。

３.ぼくの島で起きている環境問題

奄美大島で問題となっているのは、野生生物のロードキルです。特に、近年個体数が増加したアマミノクロウサギのロードキルが多く起きていて、今年は５月までに約80件発生しています。そのため、環境省や市町村が中心となって飛び出し防止のネットの設置や安全運転の呼びかけなどの対策が行われています。しかし、去年はアマミノクロウサギのロードキルの件数が過去最高となりました。私は、この問題を解決するために、道に不慣れな観光客へ向けて、受動的に聞くことのできるラジオでの呼びかけをより強化すべきだと思います。

４.西表島とのちがい

奄美大島と西表島は、どちらも同じ世界自然遺産の島であり、標高の高い山があり、島の多くが森林になっています。これは、氷河期などで大陸から切り離された大陸島であり、種の多様性に富んでいることが関係していると考えられます。一方で、奄美大島にはアマミノクロウサギが生息していますが、西表島には生息していません。それは、奄美大島には肉食獣がいないのに対し、西表島には肉食獣であるイリオモテヤマネコが生息しているため、アマミノクロウサギは西表島で生息することが困難だったからではないかと思います。

奄美大島

瀬戸内町立油井中学校
１年　近藤　亮汰



１.ぼくが住んでいる島の自然

僕の住む奄美大島瀬戸内町の代表的な自然は嘉鉄湾です。嘉鉄集落の目の前にはとてもきれいな海が広がっていて、大きいサンゴや魚がたくさん生息しています。この海は嘉鉄ブルーと呼ばれており、マネン崎からもその美しい海の青さを見ることができます。サップに乗って沖まで行って釣りをしたり、シュノーケリングではいろいろな種類の熱帯魚やウミガメ、ウミヘビを見ることができるところが好きなところです。

２.ぼくの島の生き物

僕はアマミノクロウサギを紹介します。アマミノクロウサギの特徴は、耳が短くて丸っこく、体が黒いところです。好きな理由は、夜中にドライブをしていると、親子で一緒に散歩をしているところがかわいいからです。

３.ぼくの島で起きている環境問題

僕の島では、ロードキルの問題がおきている。原因は、夜の山道などで車がスピードを出しすぎているから。解決策は、道路にスピード落とせなどの文字を書いたり、標識を多く立てることで運転者の安全運転への意識が高まり、ロードキルを減らせると思う。

４.西表島とのちがい

自分の島と西表島の似ているところは、固有種がたくさん生息しているところ。どちらも世界遺産であるところ。マングローブ林が広がっているところです。

異なる点は西表島はほとんどが森になっていて、島の中央部には道路がない。一方奄美大島は北から南まで、道路が通っている。この違いによって、生き物の多さや生き物の住みやすさにも影響がでているのかなと考えます。西表島のほうが、より自然を大切にしているのかなと思います。

奄美大島

瀬戸内町立古仁屋中学校
３年　森　咲月



１.わたしが住んでいる島の自然

【海】奄美大島の海は「奄美ブルー」と呼ばれ、エメラルドグリーンで、非常に透明度が高く透き通っている。そのため、海がとても美しく、西表島や沖縄とはまた違う海の色になっていると感じられた。エメラルドグリーンと深い青色のグラデーションになっているところも、魅力の１つだと感じている。

【ヒカゲヘゴ】上を見るために首が痛くなるほど大きく、恐竜時代を想像させるようなシダ植物で、見ていてわくわくするところ。

２.わたしの島の生き物

私はハブについて紹介します。人間にとってハブの持つ毒は有害で、危険な生き物の１つでもある。しかし、ハブもまた、奄美大島などに生息する固有種の１つで、奄美大島の現在の生態系を維持する為に必要不可欠な存在であると考えられる。私自身、ハブを一方的に悪的な存在と見ていたこともあったが、生態系を守る、という本当の意味や理由は何なのかということを考えさせられるきっかけにもなり、その点が魅力的で面白いと思った。

３.わたしの島で起きている環境問題

私はごみ問題について考えます。陸で捨てられたゴミや、別の場所で捨てられたゴミが、風や海によって流されたことが原因だと考えられる。積極的にボランティア活動をすることができなくても、ゴミが落ちていれば拾って持ち帰ること、自らゴミをポイ捨てしないこと、の２つを私たちが少しでも意識していければ、段々とゴミは減っていくと思う。更に現実的にする為に、島の人々や島を訪れる観光客たちに、島の自然を理解する為の機会を与えることで、うまくいけば必然的に島の自然について興味関心を抱き、ポイ捨ての数が大幅に減少すると考えられる。

ただ、私自身もより意識して、島の自然について意欲的に学んでいき、これからも島の問題を解決できるように考えていくことが大切だと思う。

４.西表島とのちがい

【似ている点】自然が多く、日本本土に比べて気候が暖かい点。マングローブがあり、カヌーなども体験できる点。環境保全に取り組んでいる点。

【異なる点】奄美大島も西表島もどちらも亜熱帯に属しているが、西表島の方が暖かい。奄美大島は西表島に比べて雨が降る量が多い。

【なぜ違いがあるのか】西表島の方が南に位置しており、赤道に近いから暖かいのだと思う。潮の流れが影響しているため、奄美大島の方が水蒸気が多く雨雲ができやすいと考えられる。

奄美大島

龍郷町立赤徳中学校
3年　ロレンス　由庵



1.ぼくが住んでいる島の自然

私が代表的だと思う自然は、海です。なぜかと言うと、奄美はもちろん森も美しいですが、私は奄美の海は日本の中でもトップクラスに美しいと思うからです。奄美の海は他の海と違って、透明度がものすごく高く、たくさんの動植物が生息しているので、美しい珊瑚礁やウミガメを見ることもできるところが魅力だと思います。

2.ぼくの島の生き物

私が好きな奄美の植物は「シイノトモシビダケ」です。キノコはキノコでも、光るキノコはあまり見ないし、とても小さくてかわいいのが印象的です。夜に光っているのは見たことがなく、昼間の時にしか見たことがないので、実際光っているところを見てみたいです。

3.ぼくの島で起きている環境問題

島で起きている問題の一つは、ビーチに流れ着く漂流ゴミの問題だと思います。実際、日本のゴミよりも、海外のゴミが多いのが残念なところだと思います。これの解決策は、ビーチクリーンだと思います。すでに私の学校では２週間に１回、校舎裏のビーチでビーチクリーンを行っていますが、始める前と比べたら、ものすごく綺麗になっています。今は、ビーチのゴミがほぼなくなったので、今までに回収したゴミでアートを作ろうとしています。こうしてゴミを色々なものに使うことができたら、エコなのではないかと思います。

4.西表島とのちがい

西表島と奄美はどちらも島で、様々な動物が共生する素晴らしい森と海があるのが似ているところだと思います。逆に異なる点は、生息している生き物や植物が違うことと、島の大きさだと思います。

このような違いがある一つ目の理由は、昔どちらの島も陸続きになっていましたが、時代が進むとともに陸から切り離され、島になっていったからだと思います。二つ目の理由は緯度が違うからだと思います。奄美は西表島よりも北分に位置するため、それはそれで異なる動植物が生息するからだと思います。

奄美大島

龍郷町立龍南中学校
３年　東田　いちか



１.わたしが住んでいる島の自然

奄美大島は、海がとてもきれいで、たくさんの自然が残っている島です。私が一番すごいと思うのは、自然だけでなく、文化も大切に受け継がれているところです。

私が住んでいる龍郷町には、豊作を祝う「秋名のショチョガマ」や「平瀬マンカイ」という伝統行事があり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

また、地域ごとに少しずつ違う「シマ口」があることも魅力です。最近はシマ口を話せる人が減っているそうですが、学校の授業でも学ぶ機会があり、これからも受け継いでいこうという取り組みが行われています。私は、このような活動はとても大切だと思います。

２.わたしの島の生き物

奄美大島には、アマミノクロウサギという生き物がいます。アマミノクロウサギは、一般的なウサギとは違って、耳が短く、一般的なウサギのように高くジャンプすることはあまりないと聞いています。黒い毛がふさふさしていて、短いしっぽは毛に隠れているのか、ほとんど見えません。アマミノクロウサギは、国の特別天然記念物に指定されているとても貴重な動物です。小っちゃくてかわいらしいところがわたしの好きなところです。

３.わたしの島で起きている環境問題

奄美大島では、さまざまな問題を抱えていると聞いたことがありますが、私がよく耳にするのは、アマミノクロウサギなどの希少な生き物のロードキルです。奄美大島には夜行性の生き物が多く、夜から朝方にかけて交通事故（ロードキル）が多いと聞いたことがあります。私はまだ運転することはありませんが、私たち中学生も、運転する方へ注意を呼びかけたり、希少な生き物の生態について知ってもらったりすることが大切だと思います。

生き物にも、人にも過ごしやすい環境づくりを考えることが大切だと思います。

４.西表島とのちがい

奄美大島と西表島の似ている点は、どちらも世界自然遺産に登録されていて、豊かな自然があるところです。マングローブはどちらの島にもあり、似たような生き物が住んでいると思います。

異なるところは、奄美大島にはヤマネコがいないことです。西表島にはヤマネコがいて、奄美大島にはいないところです。

この違いにはどのような理由があるか、研修の中で知ることができたらなと思っています。

喜　界　島

喜界町立喜界中学校
３年　相良　香乃



１.わたしが住んでいる島の自然

特に代表的なのは「島全体がサンゴ礁の隆起で出来ている」ということです。このことから「隆起サンゴ礁の島」とも呼ばれています。年間約２㎜という世界で２番目に速い隆起スピードで今も成長し続けています。この隆起の速さには理由があり、プレートの沈み込みや海底の大山の衝突地震が関係しています。大地震が起きると、地殻変動によってサンゴ礁が一気に海面上に押し上げられ段丘も出来ます。このステップが十万年前から５回起きたため、古いサンゴの地面ほど高く、新しいサンゴの地面ほど海に近いという５階建ての構造になりました。段ごとに異なる土壌の性質や日当たりを生かし、ミネラル豊富なサトウキビや白ゴマを作っているのが特徴的です。

２.わたしの島の生き物

「特攻花」と聞いてこの花が、何の花か分かりますか？私が「特攻花」と呼ばれる花の存在を知ったのは昨年の夏の事です。中学２年の春に修学旅行先で訪れた長崎原爆資料館で戦争を身近に感じ興味を持ったのをきっかけに、その夏、鹿児島県の知覧特攻平和会館へ行くことになりました。その中で自分の住んでいる喜界島が特攻機の給油地であったことを知り、喜界島空港周辺に群生している花が天人菊。別名「特攻花」と呼ばれている事も知りました。その由来は、喜界島から飛び立つ特攻隊員たちに、島の女性たちが天人菊の花束を贈ったが、「一緒に散るのは忍びない」と隊員たちが放った天人菊の花束の種子が落ち、空港周辺で見られるようになったと言われています。普段何気なく目にしていた花に悲しい過去があると知った後、特攻花と呼ばれるこの花を強くたくましいと感じ、私の中で特別な花になりました。

３.わたしの島で起きている環境問題

令和６年12月に佐手久集落に島で初めての一般廃棄物最終処分場が完成。それまでは、クリーンセンターで処理された灰は島外への排出が必要で輸送費などが課題であった。最終処分場ができたことで、輸送費の問題はなくなったが使用期間が15年ほどであるので１年でも長く使用できる様に灰のみを埋めるなど対策している。町の役場住民課では、ゴミの再利用の一環としてコンポスト購入者への助成がある。家庭で出来るリサイクルとして今後、取り組んでみたいと思いました。

４.西表島とのちがい

【似ている点】同じ南西諸島にあり、年間気温が比較高く温暖な気候。ガジュマルやフクギなどの巨木や、色鮮やかなハイビスカスが見られる点。どちらの島も特有の方言がある。

【異なる点】島の面積、人口。西表島にはハブがいる。

【なぜ違いがあるのか】地形や島の成り立ちが違うことから、生態系が異なると思います。西表島が山や川があるのに対し喜界島は平たんな島です。

徳　之　島

徳之島町立亀津中学校
３年　森島　ゆずは



１.わたしが住んでいる島の自然

私が紹介したい徳之島の自然は「ムシロ瀬」です。この場所は、奄美十景のうちの一つであり、とても壮大な景色が見られます。ムシロ瀬は、奄美群島では珍しい花崗岩を見ることができます。大きな波しぶきや、ゴツゴツとした岩肌など、この場所では自然の雄大さを肌で感じることができます。

２.わたしの島の生き物

徳之島には、アマミノクロウサギやトクノシマトゲネズミなどの様々な固有種を見ることができます。その中でも私が紹介したいのは、「オビトカゲモドキ」です。オビトカゲモドキは、森林や川沿いなどで見つけることができ、尾と背に帯の模様が入ったユニークな見た目が魅力の生き物です。

しかし、現在では外来種や生息地の減少などたくさんの影響を受けて絶滅危惧種に指定されています。

３.わたしの島で起きている環境問題

私は、徳之島に住んでいるなかでゴミの問題が一番の問題だと思います。普段道を歩いていると、たくさんのゴミが落ちているところを見かけますし、ポイ捨てをする人を見たこともあります。

この問題に対して私は、一人一人の意識を変えていくことが問題解決への近道だと思います。徳之島の自然は価値があるということをみんなが忘れずに、島の自然を未来まで残すために自分ができることを行うことでゴミは減っていくと思います。

４.西表島とのちがい

徳之島と西表島の共通点は亜熱帯の、温暖で一年を通して暖かい気候です。

また、この二つの島の違いは生態系だと思います。私は、このような違いがあるのはそれぞれの島のでき方が関係していると思います。

徳　之　島

天城町立天城中学校
３年　中磯　花奏



１.わたしが住んでいる島の自然

徳之島には２ヶ所の自然遺産地域があります。そのうちの一つが天城岳です。天城岳には多くの固有種が生息していますが、登山道が整備されており比較的自由に散策することができます。

一方で自然遺産地域には指定されていませんが、私の家の近所に当部林道という道があり、毎年家族で訪れます。ここでも様々な動植物を見ることができ、徳之島の「人の住む場所と固有種が残る山との近さ」を感じることができます。

２.わたしの島の生き物

私の住んでいる徳之島の特徴的な動植物の一つに、「オビトカゲモドキ」がいます。オビトカゲモドキはヤモリの仲間でありながらまぶたがあり、まばたきをするところがかわいいと思っています。他にも手足には吸盤ではなく爪があるという特徴があります。また、ヤモリの仲間は危険を感じると尻尾を切るという習性がありますが、オビトカゲモドキは、尻尾を切る前と生え変わった後で尻尾の模様が変わるという特性を持っています。尻尾を切り離す前はしま模様ですが、尻尾を切り離した後はまだら模様の新しい尻尾が生えてきます。

３.わたしの島で起きている環境問題

私が住んでいる徳之島の環境課題の一つに、「希少植物の保護」があげられます。人と自然が近すぎるが故に、知らないうちに固有種である植物を抜き取ってしまったり除草剤で枯らしてしまったりしています。どの植物が固有種なのか。固有種がどこに生息しているのか。これらが知られていないことが原因だと考えた私は、固有種の場所をわかりやすくするための目印を設置したらいいのではと考えました。でも家でこの話をしたら、「場所がわかると盗掘の恐れがあるのではないか。」という意見が出たので、一般的に公開するのではなく、一部の関係者にだけ伝えたらよいのではないかと思っています。

４.西表島とのちがい

同じ自然遺産地域として登録された西表島ですが、行ったことがないのでよくわかりません。本で調べてみると、「海と山が近く、手つかずの自然が残っている。」と書かれていました。徳之島は農地が多く、山すそまで広がっています。西表島とは地形に大きな違いがあるのだと知りました。実際に見て、その違いをもっと知りたいです。

徳　之　島

伊仙町立伊仙中学校
１年　徳永　結人



１.ぼくが住んでいる島の自然

徳之島の代表的な自然は「海」です。僕の住んでいる伊仙町は、きれいな海に囲まれており、そこには、たくさんの生き物が住んでいます。 僕の住んでいる校区にある鹿浦港では、時々、アオウミガメを見かけることがあります。徳之島の砂浜の海岸では、ウミガメの産卵が行われます。ほかにも、徳之島の海には、多くの種類のサンゴが生息しており、美しいサンゴ礁が島の豊かな生態系をささえています。サンゴ礁は、熱帯魚やクマノミなど、多くの生き物のすみかになります。また、冬になるとザトウクジラが泳いでいる様子を見ることもできます。このように、徳之島の海域は、ウミガメやサンゴ礁、多様な海洋生物が共存する、生物多様性の高い海域だそうです。人と自然が共存しているところが、好きなところです。

２.ぼくの島の生き物

僕の知っている固有種は、「アマミノクロウサギ」です。奄美大島や徳之島を代表する動物で、世界でもこの二つの島にしかいません。夜行性なので、夜に山の方に行かないと見ることができないため、とても貴重です。僕は、アマミノクロウサギを見たことがあります。見かけた瞬間、ほとんどのクロウサギは逃げてしまいます。クラスメイトでも、実物を見たことのある人は少ないです。つまり、アマミノクロウサギは、僕たちの住んでいる町の中ではなく、自然豊かな山へ見に行かないと見られない動物なのです。奄美大島と徳之島にしか存在せず、自然豊かな山の中でしか姿を現さない、そういう所が、アマミノクロウサギの好きなところです。

３.ぼくの島で起きている環境問題

近年、アマミノクロウサギが巻き込まれる事故が多くなってきています。2025年に交通事故等で確認されたアマミノクロウサギの事故件数は29件でした。2024年は徳之島で交通事故による死亡が42件も確認され、当時としては過去最多でした。その原因は、大きく三つあります。一つ目は、夜行性であることです。アマミノクロウサギは夜に活動するため、夜間に道路に出てきて、車と衝突しやすくなっています。二つ目は、道路がアマミノクロウサギの生息地を横切っていることです。アマミノクロウサギが住んでいる山には、県道や町道などが横切っており、生息地周辺での事故が多発しています。三つ目は、個体数や分布の回復です。保護活動により個体数が増え、生息地が広がった結果、道路を横断する機会も増えています。そのほか、交通事故以外では、放し飼いの犬や猫による捕食も、徳之島のアマミノクロウサギにとって大きな脅威となっています。この問題を解決するには、車を運転する側からは、そもそも夜間に運転しないことが大事だと思います。

４.西表島とのちがい

似ている点は、どちらも亜熱帯の温暖な気候で、豊かな自然があるところです。どちらにも希少な固有種が生息しているところも似ています。一方で、異なる点は、世界自然遺産に登録されている面積です。世界遺産に登録されている区域を見てみると、徳之島は、約248㎢のうち、島全体の10％である約25㎢が登録されていて、西表島は約289㎢のうち、島全体の72％である、約208㎢が登録されているそうです。なぜ、世界自然遺産の登録区域に大きな違いが出るのかと言うと、地形や人々の土地利用の違いがあるからです。徳之島には約二万人が暮らしており、集落や農地などが島全体に広く分布しています。一方、西表島は、島の約9割が森林で、人の住む地域は海岸沿いのごく一部だそうです。

沖永良部島

知名町立知名中学校
１年　谷山　瑛音



１.ぼくが住んでいる島の自然

沖永良部島は、サンゴ礁が隆起してできた島です。ハブがいないので、大山や越山を気兼ねなく散策できます。1月末から2月初めにはヒガンザクラが咲き、本土より早くお花見ができることにとても驚きました。ヒガンザクラは、ソメイヨシノとは違ってさくらんぼのように花が咲くので、とてもかわいいです。また、2月ごろからはじゃがいもの収穫が始まり、初夏にはエラブユリの球根掘りも行われます。島にはハイビスカスやユリなど、1年を通してたくさんの花が咲いていて、「花が多い島」だと感じました。沖永良部島には、季節ごとに自然の魅力を楽しめるところがたくさんあります。

２.ぼくの島の生き物

僕は小学生の頃から、ウミガメの産卵跡調査をしています。この調査は、母ウミガメが産卵した後の巣や足跡を見て、産卵したかどうかや、どれくらいのウミガメが産卵しているかを調べる活動です。同じ調査を長い期間続けることで、どれくらいのウミガメが沖永良部島へ戻ってきているのかを知ることができます。生まれた子ガメは約30年後に大人になり、自分が生まれた砂浜の近くへ戻って産卵すると言われています。そのため、今沖永良部島で産卵しているウミガメは、約30年前に生まれた子ガメが成長した姿だと考えられます。僕は、このことが沖永良部島の海が長い間美しく保たれている証拠になっているのではないかと思います。毎年冬や夏には、海流の流れによって大量の漂着ごみが海岸に流れ着きます。しかし、ビーチクリーン活動を行う団体が多く、島民みんなで美しい海を守ろうとしています。僕の先輩や後輩が所属している「ウジシきれい団」の活動も有名です。このような活動が続いているからこそ、沖永良部島のきれいな海が守られているのだと思います。

３.ぼくの島で起きている環境問題

最近、局部的豪雨の発生や台風の接近などがり、赤土が海に流れたり、水路から雨水があふれ道路が冠水したりしています。また僕の通学路もこの間の台風で雨がたくさん降り、石垣が土砂崩れを起こしています。 沖永良部島ではたくさんある遺跡を自然災害からどんなふうに守っていくか新しい課題になるのではないかと思います。

４.西表島とのちがい

沖永良部はサンゴ礁が隆起した島ですが、西表島は山の島なのでその点で自然環境が大きく違うと思います。 西表島は初めて行くので、今回たくさんの違いを見つけて、西表島の中学生の皆さんに教えてもらいたいと思います。

与　論　島

与論町立与論中学校
２年　本畑　蒼太



１.ぼくが住んでいる島の自然

私の島の代表的な自然は、世界有数の透明度を誇る海から、潮が引いたときにしか現れない幻の砂浜「百合ヶ浜」です。与論島はサンゴ礁に囲まれており、そこには様々な生き物が生息しています。このようなことを与論島民で守るために海謝美などで活動しています。百合ヶ浜にはグラスボートで行くことができ、百合ヶ浜に行く途中でアカウミガメなどを見ることができたりします。

与論島では海と人が関わりあっていることを実感できることが好きなところです。

２ぼくの島の生き物

与論の特徴的な動物は、オリイオオコウモリです。オリイオオコウモリは、南西諸島に分布するクビワオオコウモリの亜種です。頭胴長が約20〜25ｃｍと大きなことや、目が大きくクリクリしていてかわいらしい見た目が特徴です。毎年フクギの実がなると、その実を食べにたくさんのコウモリが飛んでくるのが面白いです。好きなところは、犬のような顔と、毎晩、家にある黒木の実や、畑のバナナの実を食べに来てくれるところです。

３.ぼくの島で起きている環境問題

島で起きている問題は、ゴミの影響で砂浜の見た目が悪くなってしまうことや、海の環境汚染だと思います。全世界の人々が環境汚染についてよく考えずにゴミをあちこちに捨てていることが原因だと思います。

これを解決するために、一人一人が環境汚染の現状を知り、少しでもよくしようという考えを持つことが大切だと思います。

４.西表島とのちがい

与論島と西表島が似ている点は自然に囲まれていることだと思います。

また、異なる点は、与論島は山がなく、川もないというところと、マングローブ林がないところです。

与論島はサンゴ礁が隆起してできた島で、西表島は地殻変動や海水面の上下運動によってできた島で、島の成り立ちが違うから違いがあるのだと思います。